

ミシガン大学歯学部口腔衛生学分野での大学院生，若手研究者研修プログラムに参加して

予防歯科学分野 医員

松本沙耶香

このたび WHO 口腔保健協力センターの活動の一環として、2010 年 2 月 8 日から 11 日までの 4 日間に渡りミシガン大学歯学部口腔衛生学分野での研修に参加する機会を得ることができましたので、その内容についてご報告いたします。

この研修の主な内容は、1. 歯周病と全身的健康の関連性、基礎的な疫学調査の研究デザインや統計学的手法に関するセミナーと、2. 大学院生および若手研究者の英語によるプレゼンテーションスキルの向上を図るための演習でした。

1. ミシガン大学歯学部口腔衛生学研究室 (George W. Taylor 先生の研究チーム)

現在歯学部口腔衛生学教授である George W. Taylor 先生(以下 Taylor 先生)の研究チームは、口腔疾患と全身的健康、特に歯周病と糖尿病、糖尿病性合併症の関連性について注目し、対象はアメリカ全土から発展途上国に至るまで数多くの疫学調査や臨床介入研究を実施しています。これらの研究調査はアメリカ国立衛生研究所の歯科・頭蓋顔面部門やその他の財団からの援助を受けて行われています。

2. ミシガン大学歯学部口腔衛生学研究室の疫学調査について

図 1 は過去に実施された研究や現在進行中の研究を示したものです。赤色がと黄色のピンが現在進行中、緑・黒は既に調査が終了しているものです。以下にその一例を挙げます。

1. 既に終了している調査

● アリゾナ州フェニックス

アリゾナ州ギラ川周辺にあるインディアン居住地に住むインディアンを対象に 1982 - 1989 年にかけて実施された追跡調査です。この調査より、重度歯周病は 2 型糖尿病の血糖コントロールに悪影響を及ぼすことが報告されました(1)。

● プエルトリコ、ケンタッキー州レキシントン

これらの地域での研究は、それぞれプエルトリコ大学とケンタッキー大学との共同研究です。その調査の結果、歯周病と妊娠性糖尿病は疫学的に関連性があることが示されました。

2. 現在実施中の調査

● メイン州オーガスタ

糖尿病患者における歯科治療サービスの利用と医療保険費の関連についての調査を

実施しています。

- ニューヨーク州とニュージャージー州

ニューヨーク州とニュージャージー州にある 4 つの連邦政府認可の健康センターで大規模調査を実施中です。アメリカの健康センターでは低所得者を対象に歯科治療を含め、医療サービスが受けられます。この臨床研究の目的は、歯周治療が血糖コントロール・糖尿病合併症に与える影響について調査することです(2)。

- パキスタンの北部都市ラホール

シュトラウマン社の援助の下、パキスタンの糖尿病患者における、歯周治療に伴う抜歯・インプラント義歯治療が糖尿病患者の血糖コントロールに及ぼす影響について調査が行われています。

現在 Taylor 先生はアメリカ国立衛生研究所の調査プロジェクトでもある「米国全国健康・栄養調査 (NHANES)」の主要研究員でもあります。Taylor 先生の研究チームは、歯周病と糖尿病(3)や妊娠性糖尿病(4)の関連性だけでなく、重度歯周病と慢性腎疾患の関連性(5)についても興味ある知見を報告しています。

また政府や他大学・研究機関と連携し、調査の研究デザイン・質問表の作成やデータ解析などに関する研究支援も行っているとのこと。

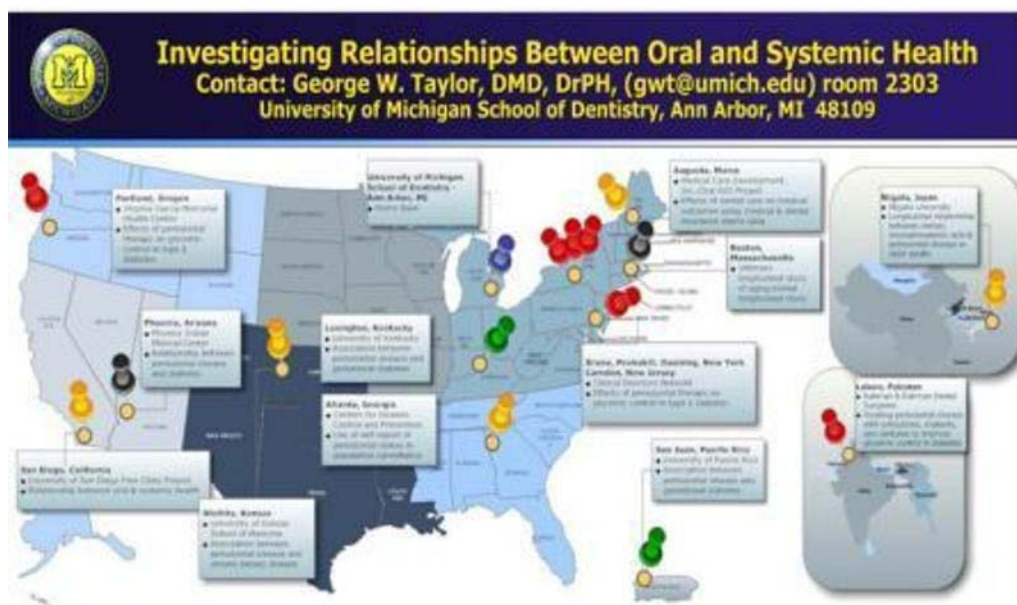


図1 Taylor先生の研究室において実施されている疫学調査一覧

3. 英語によるプレゼンテーションスキルの向上を図るための演習

英語でのプレゼンテーションスキルの向上を図るために、一人当たり約50分程度、発表20分・質疑応答30分を想定し、Taylor先生の研究チームの前でプレゼンテーションを行

いました。私のプレゼンテーションの内容は学位研究である、「2型糖尿病患者のインシュリン抵抗性に対する歯周治療の効果」についての研究結果と、現在行っている「2型糖尿病患者のアディポネクチン遺伝子型と歯周病の病態の関連性」の研究背景や具体的方法などについてでした。

大学院生時代、国際歯科学会において英語によるプレゼンテーションの経験はあったものの、プレゼンテーション自体は約10分程度、質疑応答は約5~10分と極短時間でした。今回のように長時間に及ぶプレゼンテーションは初体験であり緊張しましたが、Taylor先生の研究チームの先生方と現在進行中の研究内容・研究デザインなどについて、積極的にディスカッションを行いました。Taylor先生からは、モニタリングすべき糖尿病の内科的指標の選択や歯周炎の評価基準などについての具体的なアドバイスをいただき、今後の研究への指針となる大変有意義なプレゼンテーション演習となりました。



プレゼンテーション風景

4. 全体を通して

今回のような研修プログラムは、基礎的な統計学講義から実践的なプレゼンテーション演習まで多岐にわたる内容で、短期間の研修ではありましたが私自身のスキルアップへの礎となる充実した機会になりました。

また、糖尿病と歯周病の関連に関する疫学研究で著名なTaylor先生のお話を直に拝聴できたことは、自分自身の研究に対する意欲と知識の再構築となり、この経験をこれからの研究に反映させていきたいと考えております。



Taylor 先生による講義

参考文献

1. Taylor GW, Burt BA, Becker MP, Genco RJ, Shlossman M, Knowler WC, Pettitt DJ. Severe periodontitis and risk for poor glyceimic control in patients with non-insulin-dependent diabetes mellitus. *J Periodontol.* 67, 1085-1093, 1996.
2. Clinical Directors Network, Inc. <http://www.cdnetwork.org/NewCDN/periodontal.aspx>. (accessed 26/04/2010).
3. Tsai C, Hayes C, Taylor GW. Glycemic control of type 2 diabetes and severe periodontal disease in the US adult population. *Community Dent Oral Epidemiol.* 30, 182-192, 2002.
4. Novak KF, Taylor GW, Dawson DR, Ferguson JE 2nd, Novak MJ. Periodontitis and gestational diabetes mellitus: exploring the link in NHANES III. *J Public Health Dent.* 66, 163-168, 2006.
5. Am Fisher MA, Taylor GW, Shelton BJ, Jamerson KA, Rahman M, Ojo AO, Sehgal AR. Periodontal disease and other nontraditional risk factors for CKD. *J Kidney Dis.* 51, 45-52, 2008.